

2011.9.14「野田総理、口先だけの正心誠意はやめよ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は9月14日です。昨日から野田内閣が発足して初めての臨時国会が開かれております。当初から私達は、「野田総理には所信表明演説だけではなく、予算委員会や震災復興の為にまだまだ議論しなければならないことが沢山あるため、会期をしっかりと取るべきだ」と主張してきました。しかしながら、野党側の要求は拒否され、たった4日間の日程になってしまいました。この問題はまさに野田内閣の姿勢を現わしており、野田総理は所信表明演説において「正心誠意やっていきたい」と仰っていますが、この正心誠意は口だけであります。もし、正心誠意取り組むのであれば国民の負託を受けた議員として、国会でしっかりとした議論を行わなければなりません。それにもかかわらず勝手に4日間の会期を設定し、所信表明を行い、残りは衆参で代表質問して終わりということでは全く意味がないわけです。せめて予算委員会を開き、個別の問題や政策に対してどのように考えているのかを説明しなければ国民には「正心誠意」が伝わらないと思います。

今回、野田内閣が発足しましたが、野田氏の所信表明演説の中でも政権交代の後、わずか2年の間で3人目の総理になったことが触れられました。その原因は何かと言えば、マニフェストの問題や政治とカネの問題、震災復興の遅れといった様々な問題にあったわけですが、これら山積した問題について野田氏がどのように考えているのか、また何を反省し、何を直していくのか言及され

るかと思い期待していたのですが、全く触れておられませんでした。この演説のどこに正心誠意を見いだせるのでしょうか。また「我々は平身低頭して野党の意見も聞きたい」と仰っていますが、野党の意見を聞くと言っておきながら、国会はたった4日間の日程です。これで一体どこで野党の意見を聞くのでしょうか。

そもそも民主党は野党時代から自民党と協議する際も裏でコソコソ行わず国会を通して話し合いを行おうと一貫して主張してきたのです。その彼らが政権を取った途端に、話を聞かせて下さいと言っておきながらすぐに国会を閉じてしまい、野党の追求から逃れようとしています。そして、更に私が許せないことは国会開会の為に陛下にお越しいただいたのですが、そのお出迎えの時に陛下のお姿を参議院の民主党会派の議員である平山氏が携帯カメラで撮っており、これが問題になり厳重注意を受けました。彼いわく「今までも、毎回撮ってきていた」ということなのですが、一体何の為にそのようなことをする必要がありますのでしょうか。天皇陛下は国民の代表であり、かつ日本精神の象徴であります。このようなことを考えますと、陛下を芸能人のように自分達の記念の為に写真を撮って、ホームページに載せようなどとは普通考えられません。まさに陛下を軽視する姿勢が平山氏だけではなく、民主党全体に充満しております。そして、わざわざ陛下をお招きしておきながら4日間だけで国会を閉じてしまうことにもこの姿勢が反映されているのではないのでしょうか。さらに、

陛下の認証を頂いて大臣に就任したにも関わらず、鉢呂経済産業大臣は国会を開く前に辞められました。またもう一度、即戦力であるということで枝野氏が任命されましたが、この人事につきましても私は納得できません。

枝野氏は原発対応において「ただちに問題はない」と誤った情報を流したり、またスピーデイという放射能拡散情報も公表しなかったり、数々の誤りを犯してきた人です。そんな人を即戦力であると言っている時点で、どうかしていると思っています。要するに枝野さんが行ってきたことは詭弁を弄しただけであります。その詭弁を弄した人間を即戦力で使うなどということは、許しがたい誤りを犯していると思います。そして、何度も申し上げてきましたが、天皇陛下というのは国家の象徴であり、その陛下に認証を受けるというのは国民に多大なる責任を負っているということなのです。その任命された方がわずか数日で辞めてしまい、その後任の方が以前から問題ありとさてきた人物であります。そして、国会も天皇陛下をお招きしたのにも関わらず4日間では舐めきっていると思います。このような態度でどのように正心誠意出来るのか疑問に思いますし、マスコミの報道を見てもこのような姿勢に対する追及が少ないことに驚きを隠せません。まさに、民主党、マスコミは皇室、陛下のご存在ということをどのように考えているのでしょうか。陛下の認証や式典を通じて我々は国民に負託を負っているということを実感するわけです。これを実感することによって難局であっても国民の負託に応えてしっかり議論していこうと思い、

また大臣なら職責を果たそうと考えるわけですが、それができなかったのです。また、負託に応えようと言っているのにも関わらず4日間で閉会してしまうなんて一体何を考えているのでしょうか。私は民主党の姿勢というものはこのようなところに現れており、野田内閣はとんでもないと思っています。

本来ならば少なくとも予算委員会を開かなければなりませんし、その後に大臣が変わったのですが一人一人の所信表明を聞かなければなりません。そうなりますと予算委員会は9月いっぱいまでかかります。また、9月中旬には総理は国連総会がありますので最終週しか出席できません。そして各委員会において大臣の所信表明演説を行いますと10月半ばになり、10月半ばに第三次補正予算を提出するわけです。そして補正予算の審議をしていきますので12月まで国会の中で様々な議論ができるはずなのです。ですから本来は4日間で国会を閉じるなんて考えられないのですが、民主党の平野国対委員長も仰ったように本音は、自らは不完全であり、予算委員会で野党から攻められ立ち往生するのが怖いから国会を閉じているのです。

そして、最後にもう一点お話しさせて頂きたいのですが。被災地で事業をされている方々の一番困っていることは「二重ローン」の問題であります。我々自民党も二重ローン解消の為に政府に様々な提言を行い、参議院では法案が通っているのですが、衆議院では民主党の反対でまとまらず審議を延長して次の国会で同意を得る話し合いをしようと決めたわけです。ところがこの次の国会

というのは今の臨時国会であり、これを4日で閉めるというのは先の国会での約束は何だったんだということです。まさに詐欺師、ペテン師であります。このように野田内閣は表面上は平身低頭で、正心誠意という言葉だけが踊っています。頭を低く下げておられますが、やっていることは出鱈目であります。私は言葉は優しく、やっていることは出鱈目であるという罪は重いと思っております。この国会の論戦を通じて野田内閣の本質を皆様にお示しし、国会延長を求めています。皆様方のご支援よろしく申し上げます。